

令和5年度天皇杯受賞者受賞理由概要  
多角化経営部門

香りの強いユズの特徴をいかした先駆的な6次産業化の実施

- 氏名又は名称 馬路村農業協同組合（代表 北岡 雄一）
- 所在地 高知県安芸郡馬路村
- 出品財 経営（ユズ）

○受賞理由

・地域の概要

馬路村は、県東部の徳島県境に位置する。周囲を標高 1,000m級の山に囲まれており、村の総面積の約 96%が森林となっている。年平均気温は約 17.4℃、年間降水量は約 4,400mm であり、温暖な気候や豊富な降水量に恵まれている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

地域の主要産業である林業が衰退する中で、平地が少なく日照時間も短い山村で林業に代わる特産品を模索し、昭和 30 年代から栽培されているユズに着目した。馬路村のユズは、皮が厚くて酸味も強いため青果販売は難しいが、香りが強い特徴があることから、6次産業化の取組が一般的ではなかった昭和 50 年代に生産・加工・販売を一貫して行う体制を整え、村の特産品として全国的に認知されるようになった。

・受賞者の特色

(1) 安心・安全なユズの循環型農業

化学肥料や農薬を用いない有機農業やそれに準じる栽培を行うために「馬路村ゆず栽培の指針」を制作し、平成 13 年から全農家はその指針に則した栽培に取り組んでいる。また、ユズ加工品の生産過程において出た残渣を、地域の製材所から排出される木の皮などの木材残渣などと混ぜて堆肥化し、農業者に無料配布するなど循環型農業も実践している。

(2) 商品と村を同時に売り込む販売戦略

馬路村の田舎のイメージを前面に押し出した情報を商品に乗せることで、村の魅力と商品の魅力を併せて消費者に伝えるという広報戦略を展開した。開発した商品が百貨店の名産品コンテストで最優秀賞を受賞したことを契機に、商品のファンだけではなく馬路村に愛着を持つ消費者が増加し、観光客の誘致につながった。

(3) 高齢化等の地域の課題への対応

住民の高齢化に伴い、農繁期に人手を確保することが困難になってきたことから、平成 29 年からユズ収穫に従事しながら、馬路村の暮らしを体験することができる「ふるさとワーキングホリデー ゆずとり応援隊」の運営を行っている。

・普及性と今後の発展方向

今後も地域振興のためにできることを模索するとともに、更なる多角化経営を目指し、加工品の輸出に取り組む構想の実現に取り組む。